

「ツヤハダゴマダラカミキリ」について



ツヤハダゴマダラカミキリ成虫
(体長約2~3.5cm 左:オス 右:メス)



ツヤハダゴマダラカミキリのフラス※1 (赤印)
※1フラス: 幼虫が食べた木くずと糞が混ざったもの

《特徴》

- ・ 体色は光沢のある黒色。鞘翅に約20個の白斑～斑を有する。
- ・ 在来のゴマダラカミキリに類似するが、頭部～胴体部付近の白紋の有無等で識別が可能。(別添の参考資料を参照してください)
- ・ 成虫は5～10月頃に出現し、寄主植物の樹幹などを食害して穴を開け、その窪みに産卵する。孵化した幼虫は秋から冬に食樹して、心材部で越冬する。幼虫が羽化すると、直径1cm程度の脱出孔を開けて樹木から脱出する。

《主な寄主植物》

- ・ トチノキ属、ニレ属、カエデ属、ヤナギ属、リンゴ属、ナシ属、サクラ属など

【本虫の拡散防止のための措置の例】

○ 薬剤処理 ナシでカミキリムシ類の防除に使用できる農薬※2 (令和3年11月24日現在)

薬剤名	希釈倍率・使用量	使用方法	使用時期	使用回数
トラサイドA乳剤	200倍・0.5～2.0L/樹	樹幹部に十分散布	6月～7月(産卵初期～産卵最盛期直前)(但し、収穫21日前まで)	5回以内
バイオリサ・カミキリ	1樹あたり1本	地際に近い主幹の分枝部分等に架ける	成虫発生初期	—
ベニカカミキリムシエアゾール	—	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	収穫前日まで	5回以内
ロビンフード	—	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	収穫前日まで	5回以内

○ ネットを被害樹木に巻く

- ・ 樹幹にネット(概ね目合4mm以下)を地際まで巻き、成虫の分散を防止する。

○ 被害が著しい樹木については、伐採・伐根の実施

- ・ なるべく成虫の発生時期(5～10月頃)を避けて実施する。
- ・ 伐根が行えない場合は、切り株をシート等で被うか土をかぶせる。
- ・ 伐採した木は粉碎または焼却処分する。

※2農薬はラベルの内容をよく確認した上で使用してください。